

みずほマーケット・トピック(2014 年 4 月 11 日)

週末版

内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	3. ※8～11 日まで筆者海外出張のため、トピックはお休みとさせていただきます。	

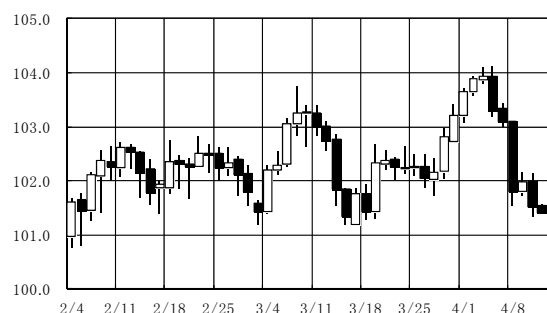
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ BK Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・今週のドル/円相場は米金利の低下を受けたドル売り圧力の増大で続落。週初 7 日に 103 円台前半でオープンしたドル/円は、前週の米 3 月雇用統計後の米金利低下、ドル安の流れを引き継ぎ、103 円ちょうど近辺までじりじりと値を下げた。8 日は、日銀金融政策決定会合後の記者会見において、黒田総裁が早期の追加緩和の可能性を否定したことで円が買い戻され、ドル/円は 102 円台前半まで急落。その後も、米株の軟調推移や米金利低下を背景に 101 円台半ばまで下げ幅を拡大した。9 日は、市場予想対比ハト派となった FOMC 議事要旨を受けた米金利の低下に、ドル/円は一時弱含む場面がみられるも、NY ダウ平均が反発したこともあり 102 円近辺で底堅い動き。しかし 10 日はリスクオフムードの拡がりを受けて米株が下落、米金利が再度低下すると、ドル/円は 101 円台前半まで下落。本日にかけても、昨日の流れを引き継ぎ、週安値を更新する場面も見られるなど、101 円台前半で弱含みの値動きを継続している。
- ・今週のユーロ/ドル相場は上昇する展開。週初 7 日に 1.36 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週安値となる 1.3695 まで下落するも、メルシュ ECB 専務理事やバイトマン独連銀総裁が、デフレリスクは抑制されているとの認識を示したことや、米金利低下を受けたドル売りも相俟って 1.37 台前半まで上昇。8 日にかけてもドル売り地合いが継続する中、ユーロ/ドルは 1.38 台に乗せるなど堅調推移。9 日は、FOMC 議事要旨の市場予想よりもハト派な内容に米金利が低下するとドル売りが強まり、ユーロ/ドルは 1.38 台後半まで上昇した。10 日は、フランス 3 月消費者物価指数やイタリア 2 月鉱工業生産が市場予想を下回ったものの、ドル売り圧力が勝り、ユーロ/ドルは一時週高値となる 1.3900 まで上昇した。本日にかけても、ドル軟調地合いが継続する中、ユーロ/ドルは 1.38 台後半の高値圏で堅調に推移している。

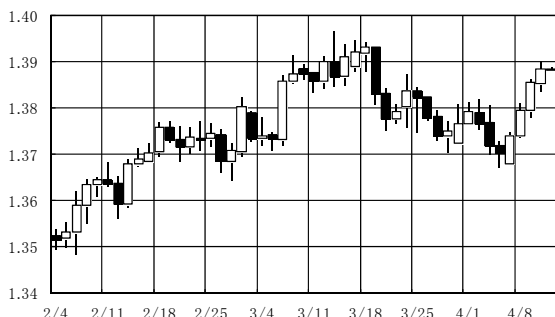
今週のおもな金融市場動向

		前週末	今 週			
		4/4(Fri)	4/7(Mon)	4/8(Tue)	4/9(Wed)	4/10(Thu)
ドル/円	東京9:00	103.90	103.32	103.07	101.96	102.13
	High	104.13	103.43	103.12	102.16	102.14
	Low	103.20	103.00	101.55	101.72	101.33
	NY 17:00	103.29	103.10	101.80	101.99	101.53
ユーロ/ドル	東京9:00	1.3723	1.3704	1.3742	1.3793	1.3852
	High	1.3732	1.3748	1.3812	1.3866	1.3900
	Low	1.3672	1.3695	1.3738	1.3780	1.3836
	NY 17:00	1.3705	1.3741	1.3797	1.3855	1.3886
ユーロ/円	東京9:00	142.56	141.57	141.64	140.62	141.47
	High	142.61	141.88	141.72	141.33	141.55
	Low	141.41	141.12	140.08	140.46	140.60
	NY 17:00	141.55	141.61	140.47	141.29	140.97
日経平均株価		15,063.77	14,808.85	14,606.88	14,299.69	14,300.12
TOPIX		1,215.89	1,196.84	1,174.56	1,150.44	1,149.49
NYダウ工業株30種平均		16,412.71	16,245.87	16,256.14	16,437.18	16,170.22
NASDAQ		4,127.73	4,079.75	4,112.99	4,183.90	4,054.11
日本10年債		0.65%	0.62%	0.62%	0.62%	0.61%
米国10年債		2.72%	2.70%	2.68%	2.69%	2.65%
原油価格(WTI)		101.14	100.44	102.56	103.60	103.40
金(NY)		1,303.50	1,298.30	1,309.10	1,305.90	1,320.50

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・来週にかけて米国では重要指標の発表が多数予定されている。指標を見る上では、3 月分のハードデータにて天候要因剥落後の経済活動の反発を確認し、4 月分のソフトデータにてその後の方向感を探ることとなるが、それぞれ固有の要因から強弱まちまちとなる可能性が高く、全体として、出口戦略の前倒しを想起させるような強い結果は期待しにくい。むしろ大寒波による下押しからの反発との期待で市場の目線が上がっている分、予想を下振れた場合のドル安圧力増大がリスクではないだろうか。個別の指標で注目したいのは、14 日(月)の3 月小売売上高と16 日(水)の3 月住宅着工件数だ。前者は自動車販売台数の大幅増加や一般商店売上の反発を背景に前月比 0.8%増と2 月(同 0.5%増)からの加速が予想されている。但し、今年はイースターの時期が例年より遅いため、季節調整の影響で結果がブレやすい点に注意が必要だろう。
- ・3 月住宅着工件数は、主に集合住宅着工の反動増を受けて大幅な反発を見せるだろう。ただ基調を確認する上で重要なのは戸建住宅の着工及び許可件数であり、これらは昨年末から頭打ちの状態となっている。先行指標の NAHB 住宅市場指数は天候が回復した 3 月も低下しており、足許の住宅指標の軟調が単に天候要因だけでは割り切れない可能性を示唆している。住宅統計が 3 月も低調な結果に終わるようだと市場にネガティブな印象を与えよう(市場予想の中心: 前月比 6.7%増、年率 96.8 万戸)。経済指標の他には、15 日(火)及び16 日(水)にイエレン FRB 議長の講演、16 日(水)にページブックの公表が予定されている。
- ・本邦では16 日(水)及び17 日(木)に黒田日銀総裁の講演が予定されているものの、サプライズは期待しにくく、市場の反応も限定的となろう。欧州では15 日(火)独 ZEW 景況感指数、16 日(水)英 2 月失業率、ユーロ圏 3 月 CPI(確報値)等に注目が集まる。

	本 邦	海 外
4 月 11 日(金)	-----	・米 3 月生産者物価 ・米 4 月ミシガン大学消費者マインド指数(速報) ・G20 財務相・中央銀行総裁会議(ワシントン DC) ・IMF・世銀年次総会(～13 日、ワシントン DC)
14 日(月)	-----	・米 3 月小売売上高 ・米 2 月企業在庫
15 日(火)	-----	・米 3 月消費者物価 ・米 4 月ニューヨーク連銀製造業景気指数 ・米 2 月 TIC レポート(対内対外証券投資)
16 日(水)	・2 月鉱工業生産(確報)	・米 3 月鉱工業生産 ・米地区連銀経済報告(ページブック) ・米 3 月住宅着工
17 日(木)	-----	・米 4 月フィラデルフィア連銀製造業景気指数
18 日(金)	・2 月第三次産業活動指数	-----

【当面の主要行事日程(2014 年 4 月～)】

米 FOMC(4 月 29～30 日、6 月 17～18 日、7 月 29～30 日)
 日銀金融政策決定会合(4 月 30 日、5 月 20～21 日、6 月 12～13 日)
 ユーロ圏財務相会合/EU・経済財務相理事会(5 月 5～6 日、ルクセンブルク)
 欧州中銀理事会(5 月 8 日、6 月 5 日、7 月 3 日)
 欧州議会選挙(5 月 22～25 日)

以 上

国際為替部

深谷 公勝、多田出 健太、山崎 友紀

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/esgn.html>

発行年月日	過去6か月のタイトル
2014年4月7日	ECB版QEについて～14年4月3日は日銀化記念日～
2014年4月4日	週末版(ECB理事会を終えて～「限りなく緩和に近い現状維持」。市場期待は臨界点へ～)
2014年4月3日	物価上昇は価格転嫁と賃金上昇が求められるステージへ
2014年4月2日	外貨準備構成通貨の内訳～ユーロ比率はボトムアウト？～
2014年4月1日	ECB理事会プレビュー～マジックを見せるなら今～
2014年3月28日	週末版(ユーロ圏M3や民間向け貸出について～貸出減少は本当に年内までか？～)
2014年3月26日	本邦10～12月期資金循環統計～際立つリスク性資産の伸び～
2014年3月25日	遂に動き出す欧州銀行同盟～不安を抱えながらの船出～
2014年3月24日	拡大する日米経常収支格差～対照的な日米需給動向～
2014年3月20日	週末版(FOMCを終えて～金利差が幅を利かせるのは14年後半から15年初か～)
2014年3月14日	週末版
2014年3月11日	今一度整理する経常収支の意味～「稼ぐ力」の誤解～
2014年3月10日	本邦1月国際収支などについて～年度赤字転落が視野に～
2014年3月7日	週末版(ECB理事会を終えて～予想外の「手ぶら」、完全なるゼロ回答を決定～)
2014年3月6日	最近の証券投資動向～スタートダッシュに躍いた日本株～
2014年3月4日	ウクライナ情勢がEU&ユーロ圏へもたらす影響などについて
2014年3月3日	ECB理事会プレビュー～「手ぶら」は想定し得ない情勢～
2014年2月28日	週末版
2014年2月26日	欧州委員会冬季経済予測を受けて～デフレの分析～
2014年2月25日	佳境を迎えるECBの情報収集～プレ・プレビュー～
2014年2月24日	G20財務相・中央銀行総裁会議を終えて
2014年2月21日	ユーロ圏消費者信頼感指数やGDP稼働率、設備投資などについて
2014年2月20日	相次ぐユーロ高牽制の読み方～高コスト温存の代償として～
2014年2月19日	日本化を否定する独連銀理事講演の読み方
2014年2月18日	本邦10～12月期GDP統計に見る「実感なき景気回復」
2014年2月14日	週末版(ユーロ圏にとって期待インフレ率とは何か？～各種指標でみるユーロ圏の期待インフレ～)
2014年2月13日	混迷度を深めるECB政策運営～マイナス金利報道を受けて～
2014年2月10日	基礎的需給などで見る円相場～2013年国際収支を受けて～
2014年2月7日	週末版(ECB理事会を終えて～現状維持というよりも緩和先送り～)
2014年2月6日	「リスク回避のユーロ買い」の考察～「資本流出への防波堤」～
2014年2月5日	円安と株高の出自は違う～最近の為替・株式相場について～
2014年2月4日	ECB理事会プレビュー～3つの要素で判断する「次の一手」～
2014年2月3日	ユーロ圏、ソフトとハードの間に生じる「ねじれ」をどう考えるか
2014年1月31日	週末版
2014年1月30日	欧州系銀行の新興国向けエクスポージャーなどについて
2014年1月28日	最近の日経平均株価の下落などについて
2014年1月27日	新興国市場の大荒れと円相場、当面の見通しなどについて
2014年1月24日	週末版(ユーロ圏11月国際収支について～需給面で支えられるユーロ相場～)
2014年1月23日	日銀金融政策決定会合を終えて～CPIピークアウトへの布石～
2014年1月22日	IMF世界経済見通し改定～ユーロ圏のデフレ確率は10-20%～
2014年1月21日	BIS実質実効為替レートで見た直近の円相場について
2014年1月20日	最近のEONIA(ユーロ圏無担保翌日物平均金利)上昇について
2014年1月17日	週末版(対外直接投資と円相場について～為替への影響は両サイド～)
2014年1月16日	燃料だけではなく「円安→輸入インフレ」の実態
2014年1月15日	円キャリー取引の検証～外銀本支店勘定は5年ぶりの水準へ～
2014年1月14日	潜在成長率が半減するユーロ圏～ユーロ圏四半期報告書～
2014年1月9日	週末版(ECB理事会を終えて～「悪いこと」に慣れ過ぎているECB。政策変更のトリガーが視界不良に～)
2014年1月8日	ECB理事会プレビュー～デフレ懸念を横目に現状維持～
2014年1月7日	2014年の円相場の見通し、論点おさらい
2013年12月27日	週末版
2013年12月26日	2013年を終えて～ブラザ含意以来の動きに挑む2014年～
2013年12月20日	週末版(動き出したユーロ圏単一清算基金(SRF)～主要論点の整理～)
2013年12月19日	FOMCを終えて～強まる「放って置けば円安」の地合い～
2013年12月18日	ユーロ圏労働コストから聞かせるデフレの足音
2013年12月17日	「アスムセンなき政策理事会」を考察する
2013年12月16日	最近の相場をどう解釈すれば良いのか
2013年12月13日	週末版(流動性逼迫とユーロ上昇、そして国債ウエイト問題などについて)
2013年12月10日	米7～9月期資金循環統計～米家計は約6年ぶりの貯蓄不足～
2013年12月9日	米11月雇用統計や年内taperingの行方などについて
2013年12月6日	週末版(ECB理事会を終えて～存在感を増す為替関連の問答～)
2013年12月5日	直近の対内・対外証券投資とドル建て日本株投資の過熱感
2013年12月4日	緩和観測は海外勢の希望的観測～春先に似る過熱感～
2013年12月3日	103円台と整合的な実質レート及び物価などを考える
2013年12月2日	ECB理事会プレビュー～現状維持も、リスクはM3か～
2013年11月29日	週末版
2013年11月27日	ECB、「次の一手」の整理～5つの選択肢を点検する～
2013年11月26日	ユーロ圏M3で見るユーロ相場の展望などについて
2013年11月25日	ECBも「連想ゲーム」に巻き込まれるのか
2013年11月22日	週末版(年金運用改革に係る雑感などについて～インフレ対策というよりも、諸外国対比の是正が主眼～)
2013年11月20日	本邦10月貿易統計などについて
2013年11月19日	最近の欧米資本フローから見る為替相場
2013年11月18日	再び挑むドル建て日経平均「150ドル」の壁
2013年11月15日	週末版(ユーロ圏7～9月期GDPなどについて～今後の焦点は加盟国間の成長率格差に～)
2013年11月14日	衆院解散表明から1年～「良いとこ取り」から「平常運転」へ～
2013年11月13日	バイマン独連銀総裁による国債リスクフリーの否定を考える
2013年11月12日	ユーロ圏の主導するグローバルインバランスの拡大
2013年11月11日	11月ECB理事会について～ドラギ・ブットの芽生え？～
2013年11月8日	週末版
2013年11月7日	生保下期運用計画などからみる円相場の今後
2013年11月6日	欧州委員会秋季経済見通し～不安な内需主導シナリオ～
2013年11月5日	ECB理事会プレビュー～11月は現状維持も論点は多数～
2013年11月1日	日銀金融政策決定会合を終えて～市場出身審議員による警鐘は重要～
2013年10月30日	ノボニー発言の読み方などについて
2013年10月29日	2014年、ユーロ圏銀行同盟の一里塚に絡む不安
2013年10月28日	低下する円相場のボラティリティとユーロ/ドルの警戒サイン
2013年10月25日	週末版(ユーロ圏固有のユーロ買い要因を考える～過剰流動性減少やドイツ市場の活況～)
2013年10月22日	Jカーブ効果を諦める時なのか？
2013年10月21日	勢いつく「敵失のユーロ高」の行方
2013年10月18日	外貨準備の民間委託報道などについて～「外貨準備の増加」は良いことか、悪いことか～
2013年10月11日	『2013年秋季IMF国際金融安定性報告書』について～分断化(fragmentation)の計量分析など～
2013年10月9日	2013年秋季IMF世界経済見通しについて
2013年10月8日	「火遊び」によるドル売りは買い場か
2013年10月7日	「2年で2%」の旗の降ろし方～日銀会合を終えて～